鶴報

第２３８号
2019年７月20日

日本大学鶴ヶ丘高等学校　広報部
東京都杉並区和泉２－26－12
TEL　03−3322−7521（代）
http://www.tsurugaoka.hs.nihon-u.ac.jp

第１学年　オリエンテーション

学　校　行　事　《第１学期》

４月６日　入学式
８日　始業式
９日　全学年スタディサポート
12日　１年オリエンテーション（～14日）
17日　１・２年基礎学力到達度テスト
18日　３年基礎学力到達度テスト
19日　生活指導部講演会・部活動説明会
20日　全学年保護者会・海外語学研修説明会①
22日　３年実力養成講座開始
23日　定期健康診断
25日　３年特進コース実力試験（～26日）
26日　生徒総会
５月８日　１年日本大学講演会・GPS-Academic
２・３年校外授業
11日　海外語学研修説明会②
15日　３年志望理由書サポート
18日　全学年オープンスクール
23日　教育実習開始（～６月12日）
27日　中間試験（～５月30日）
６月１日　英検準会場
５日　３年普通コース日大チャレンジ模試
３年特進コース実力試験（～６日）
８日　校内英語スピーチコンテスト
15日　１年高大連携教育
２年GPS-Academic・保護者対象修学旅行説明会
３年生徒・保護者対象進路説明会
22日　鶴ヶ丘祭（～23日）
26日　３年志望理由書対策講座
29日　海外語学研修説明会③
オーストラリア短期留学出発
７月４日　期末試験（～８日）
10日　答案返却授業（～11日）
12日　１・２年ポートフォリオ入力日
13日　特待生・奨学生授与式
18日　三者面談（～19日）
20日　１学期終業式
22日　夏期講習Ⅰ期（～26日）
２年特進コース合宿講習（～26日）
26日　海外語学研修（AU.～８月16日）
（NZ.～８月18日）
28日　３年特進コース合宿講習（～31日）
８月26日　夏期講習Ⅱ期（～30日）
夏期外部特別講習（～31日）

入学おめでとうございます

平成31年度

第68回 入学式

441名（男子201名・女子240名）が仲間入り

平成三十一年度入学式が四月六日（土）午前十時より、本校体育館で行われた。真新しい制服に身を包んだ四四一名の新入生は、満開の桜に祝福されながら新たな一歩を踏み出した。

来賓には、日本大学学長代理、大矢祐治生物資源科学部長をはじめ、多くの方々を迎え、晴れやかにして厳かに式が挙行された。式終了後、新一学年の学年主任、学級担任、学年担当が壇に上がり、新藤隆夫教頭によって新入生保護者に紹介された。

式次第

開式
国歌斉唱
学校長式辞　川原　容子校長
学長告示　大塚吉兵衛学長
（代読　大矢　祐治　生物資源科学部長）
在校生代表　歓迎の言葉
生徒会長　影山　颯太（石川台中）
新入生代表　誓いの言葉
一Ｋ　保坂　梨亜（足立十一中）
新入生代表　保護者挨拶
岩谷　重光　様
校歌斉唱
閉式

式辞

学校長　川原　容子

春本番を迎え、花々が競うように咲き誇っている今日の佳き日に、四四一名の新入生を迎え、平成三十一年度第六八回日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式を挙行するにあたり、日本大学学長代理として生物資源科学部長大矢祐治先生を始め、執行部の先生方、多数の御来賓の皆様の御列席を賜りました。さらに、多数の保護者の皆様の御臨席を得ましたこと、本校教職員を代表して、厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。教職員・在校生一同、皆さんの入学に対し、心から歓迎いたします。皆さんは自らの意志で本校を選び、厳しい入学試験を突破し、今日を迎えました。入学式は、皆さんが自ら学び、自ら成長することを決意するとともに、本校の伝統を受け継ぎ、さらに発展させることを誓う場です。また、鶴ヶ丘高等学校での生活をスタートするにあたり、本校の校訓である「自主創造」「真剣力行」「和衷協同」を心にしっかりと刻んでください。

「自主創造」とは、知的好奇心をもって自らが課題に取り組み、自分の道を切りひらいて行くことです。「真剣力行」とは、何事にも新鮮な発想を持ち、強い自制心を持って全力を尽くすことです。「和衷協同」とは、周囲の人たちと同じ目標に向かって力を合わせ、心を一つにともに行動することです。

本校では、この三校訓をもとにグランドデザインを作っています。育みたい生徒像を主体的に、協働的に「考える生徒」、「学ぶ生徒」、「道をひらく生徒」とし、日本大学の「教育憲章」にもつなげられるものとしています。高校生活においては、義務教育にはない厳しさがあり、積極性が求められる場面も多くなりますが、すべての授業・行事・部活動など、校内はもちろん、校外の活動においても「目標に向けてどう楽しく挑戦をしてやり抜けるか」を自らが考え、学んでください。

これから高校生活を始めるにあたり、皆さんに三つのお願いがあります。

一つめは、「対話ができる力」をつけ

てほしいということです。皆さんは様々な地域からこの鶴ヶ丘高校に入学して、今日から縁あって大切な仲間になります。そして、その一人ひとりは、違った考え方、感じ方を持っています。まずは、そのうえで出てくる異なる意見や考えに耳を傾けましょう。時に分かり合えないことがあったとしても、粘り強く「対話」をすることをあきらめないでください。そして、「対話」をしていく中では、必要に応じて主張してきた意見を潔く変えていく勇気も必要です。

また、本校の伝統ある多彩な海外研修プログラムにおいては、この「対話」の手段は英語となります。分かり合えないことを前提とする異文化においては、言語の学びはもちろん、自国の文化を理解し、世界に発信できる力も必要となってくると思います。ゆっくりと、しかし確実にこの「対話ができる力」をつけていきましょう。

二つめは、生活習慣を確立し、規律を守ってほしいということです。学校生活における「礼儀をわきまえ挨拶をする」、「時間を守る」、「物を大切にする」こと。これらのことは学校だけではなく、社会生活を営む上でも基本です。その上で、周囲への気配りと思いやり、感謝の心を大切に、心豊かな人に成長してください。

三つめは、「勉強することは、読むこと」を、今まで以上に意識してほしいと思います。

本を読むことは、自分とは違った人の考え方を学び、その人生を追体験することでもあります。色々な考えに触れ、自身の世界を深め、広げてください。そして、その中から、学ぶ能力以上に、学びを見つけていける能力も養ってほしいと思います。

今後は、社会に開かれた教育課程をつうじて、よりよい社会を創ることが求められます。

人の気持ちを慮ることのできる優秀な頭脳と柔らかい心を、この三年間で出会うよき友と切磋琢磨しながら、養って下さい。

結びになりますが、この鶴ヶ丘高校での三年間が充実した日々と成るよう、教職員一同、しっかり育ててまいります。保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針に、深い御理解と御協力をいただけますようお願いをし、式辞とさせていただきます。

平成三十一年四月六日

告辞

日本大学学長
日本大学短期大学部学長
大塚 吉兵衛

本日、ここに多くの御来賓並びに保護者の皆様の御臨席をいただき、平成三十一年度日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式が、盛大に挙行されるに当たり、日本大学を代表して新入生の皆さんに告辞を申し上げます。

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。日本大学は、本年、創立百三十周年を迎える伝統を誇る日本最大規模の総合大学です。本日から、晴れて日本大学の付属校である本校の生徒になられたことを心から歓迎いたします。この学園で過ごす時間は、皆さんにとって大事な大人への成長のときでありますので、学業はもちろんのこと、課外活動にも大いに励み、充実した学園生活を過ごしていただきたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、これまでお子様をお育てになり、晴れがましいこの日を迎えられたことに心からお喜び申し上げます。これから始まる学園生活を通して成長していくお子様の姿を温かく見守っていただくようお願いいたします。

さて、新入生の皆さんが、これから学園生活を始めるに当たり、「自主創造」という言葉を紹介したいと思います。「自主創造」とは、「自ら考え、自ら学び、自ら新しい道をひらいていく」という、日本大学での学びの姿勢を示す言葉であり、常に意識してほしいので、その言葉の由来を話します。

日本大学は、一八八九年に創立された日本法律学校を前身とします。この創立に際し、中心的な役割を果たしたのが、明治政府の初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵です。日本大学では山田伯爵を学祖と呼んでいます。

学祖は現在の山口県萩市に生まれ、十四歳の時に吉田松陰が主宰する松下村塾で学びました。明治維新後、岩倉具視が率いる欧米使節団の一員として、欧米諸国を訪問し、その先端技術や文化に触れた体験から、近代国家の礎を築くには、その骨格となる法律の整備と教育を充実させることが必要と考えました。

当時の法学教育は、欧米諸国の法律を教える法律学校がほとんどでしたが、日本の近代化のためには日本特有の文化、慣習を踏まえた法の整備が重要であるとの学祖の考えから、法の策定とともに人材育成のために日本法律学校を設立しました。このように、当時主流だった考え方に流されることなく、何

をすべきかを手探りで考え、自ら答えを導き出しました。この山田学祖の生き方、考え方は正に「自主創造」の実践そのものでした。現在の複雑な世界情勢下では皆さんにもこのような学びへの姿勢が求められます。

この春には三十年余りにわたった「平成」の時代が幕を閉じ、五月からは新しい元号「令和」が始まります。元号にはその時代の理想、あるいは希望が込められます。新たに始まる「令和」の時代が平和で、豊かな人間性が育まれる安定した社会になることを願います。ただ、世界を眺めてみると、経済や政治の不安定性が高まっています。例えば、経済格差の拡大、あるいは自国第一主義の高まりによる民主主義の揺らぎ、地球温暖化による環境破壊などの問題も、そう簡単には解決方法が見いだせそうもありません。先行きは不透明の様相を呈しており、歴史上まれに見る、時代の大きな転換期に差し掛かっているのかもしれません。

このような時代を生き抜くためには、目の前に現れる課題を、自己の知識から「自主創造」によって解決をしていく人間力が求められます。失敗を恐れることなく、自ら学び、自分の頭で考え、自らの答えを見付け出す努力をしてください。本校での学園生活で、常に高い志を持ち、夢を実現するために、何事にも積極的に取り組む姿勢を忘れないで過ごしてください。

結びになりますが、皆さんが本校において有意義で充実した生活を送られることを心より祈念して、本日の告辞といたします。

平成三十一年四月六日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平成三十一年三月三日に行われた平成三十年度卒業式の「学校長式辞」と「学長告示」は例年通り本号に記録として掲載する。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

式辞

学校長　川原　容子

日一日と桜の開花が待ち遠しいこの佳き日、平成三十年度第六八回日本大学鶴ヶ丘高等学校の卒業証書授与式を挙行するにあたり、日本大学学長代理として、日本大学生物資源科学部長大矢祐治先生をはじめ、執行部の先生方、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、このような盛大な卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより教職員一同この上ない歓びであります。ここに学校を代表いたしまして、心より、御礼申しあげます。

四一九名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

早いもので、入学式から三年、皆さんは本日めでたく本校所定の課程を終え、卒業式を迎えました。この日を迎えられたのは、皆さんの努力はもちろんですが、今日まで支えてくださった家族をはじめ、多くの方々のご指導やご協力のおかげでもあります。そのことに感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

さて、卒業生の皆さんには、二つの言葉を贈りたいと思います。

最初に「素直な気持ちをもって、生きる」ということ。

今、皆さんは将来への大きな夢を持っていると思います。古くから、偉大なる人たちは、逆境に抗いながらも、不屈の精神で生き抜き、夢を実現していった経験を多く持っています。

しかし、世の中は甘くない、現実は厳しいと我慢をしながら結局は夢半ばであきらめる人もいます。反対に、順風満帆に思われた夢への実現において、自惚れ故に夢を壊してしまう人もいます。

また、ＡＩの発達に伴い予測不能な時代を迎え、従来の考え方だけでは夢をかなえられなくなる可能性も出てきています。

このような状況で大切なことは、その与えられた環境の中で「素直」に「謙虚」に生きていけるかどうかだと思います。

素直さを失ったとき、逆境は卑屈を生み、人は自分と向き合うことをやめてしまいます。

素直さは、人を強くし、正しく聡明にしてくれる力だと思います。環境の違いを憂えるのではなく、厳しいときは素直に受け入れ、うまくいっているときは、素直にまっすぐ伸びていく人になってほしいと思います。

二つ目は、「強い意志を持って、『変化』を恐れず、様々なことに楽しく挑戦する」ということ。

現在の日本における大きな課題は、グローバル化・イノベーションの創出・若者と女性の活用の三つに集約されると考えています。

日本は、課題先進国すなわち世界で初めて高齢化と少子化の問題に直面する国です。

少子高齢化社会の中、どのような社会にしていくかについては、いままでの考え方では乗り越えられません。

少子高齢化を逆手に取り、まさにイノベーションを生み出すチャンスです。日本の強みが人的資本と考えると、まさに若い皆さんのクリエイティブで、先端的なビジネスアイディアが、その力になります。

明治時代や戦後の奇跡的な成長は、若者が力を発揮できたから起きたのです。

併せて、今後は女性の活用も欠かせません。眠っている女性の能力や労働力を、活用できる社会の仕組みも、今まで以上に必要です。

「日本の強みは、日本人である。」と世界が認めている事実もあります。

異質なものや自分とは違ったものを受け入れ、生かすことは大きなチャレンジですが、これから生まれる、課題先進国日本からのイノベーションを、世界が期待して待っています。

そして、強い自信を持って、海外にも出ていき、楽しく挑戦してください。この日本が世界に教えられることは、たく

さんあります。

結びに、保護者の皆様には、立派に成長され、鶴ヶ丘高校を巣立とうとしているお子様の姿をご覧になり、お喜びいかばかりかと存じます。

ここに、お子様の卒業のお祝いと、ここまで育てられたことに対し、敬意を表すとともに、高い席からではございますが、三年間にわたっての本校に対する多大なるご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

平成三十一年三月三日

告辞

日本大学学長
日本大学短期大学部学長
大塚 吉兵衛

本日、ここに多数の御来賓並びに保護者の皆様をお迎えし、平成三十年度日本大学鶴ヶ丘高等学校の卒業式が盛大に挙行されるに当たり、日本大学を代表して卒業生の皆さんに告辞を申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが所定の教育課程を修了し、本日を迎えたことに心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、本校で先生方から多くのことを学び、友人たちと夢を語り合い、時には互いに切磋琢磨するなど、三年間を振り返ると様々な思い出とともに自らの大きな成長を実感していると思います。本日は、この学び舎からの巣立ちのときであります。しっかりと前を向き、これから始まる新しい世界に、自信と勇気を持って、大きな一歩を踏み出してください。

保護者の皆様方には、お子様の御卒業を心よりお喜び申し上げます。これまで、本校に対して深い御理解と多大な御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、教職員の皆様には、学業はもとより、様々な課外活動においても、生徒たちに温かい御指導をいただき、感謝いたします。

日本大学は、本年、創立百三十周年の記念すべき年を迎えます。昨年は大学の課外活動において教学部門の対応が遅れたため、大学のガバナンス不足の指摘を受けるなど、本学の学生・生徒や卒業生の皆さんをはじめ、保護者の方々にも大変な御心配、御迷惑をお掛けしました。心よりお詫び申し上げます。このようなことが起きないように、昨年中に抜本的な組織改革を進め、積極的に再発防止策を講じております。今後は「学生・生徒ファースト」の精神で大学運営を行っていく所存です。

さて、卒業生の皆さんは、これからの新しい進路において、本校で学んだことを存分に生かし、多くの課題を乗り越えていかなければなりません。時にはその課題が困難で、挫折することもあるかもしれません。その時に思い出していただきたい言葉は、日本大学の教育理念である「自主創造」です。皆さんにとっては、本校での学園生活で慣れ親しんできた言葉だと思います。これは「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」ことで学びへの姿勢を示しています。

日本大学の学祖である山田顕義伯爵の生き方、考え方は、正にこの姿勢であり、明治の近代化に臨み、欧米の法制度を基本に新たな日本の法制度を整備するに当たって、欧米の考え方に偏らず、日本の文化・伝統・慣習を踏まえた法の整備に取り組みました。日本大学は、このような山田学祖の日本の法制度創造への取り組みを、「自主創造」として受け継いでいます。

明治維新から既に百五十年が経ちました。もちろん当時と現在ではあまりにも時代が違いますが、現在は時の流れが目まぐるしく、五年先でもその姿を予測することが困難になっています。東西冷戦の終結から始まったグローバリゼーションは、今では矛盾した事柄が顕在化し、地域、国の統合どころか、国内や国際間の経済、人権の格差として浮かび上がり、国内外で各種の分断をもたらしました。その結果、「自国第一」の政策や「ポピュリズム」のうねりが生まれ、孤立的発想が優先され、民主主義にゆがみを生じさせているように見えます。

このような難しい時代だからこそ、皆さんには目の前の諸問題に積極的に関わり、「自主創造」を実践してほしいのです。問題解決の方法は、どこにも用意されていませんし、時には何が問題かも不透明です。自らの視点で問題解決に何が必要かを考えて行動する、そうした取り組みのできる人間が、新しい道を切り開いていくことができるのです。本校で学んだ皆さんには、きっとその能力が備わっているはずです。決して学びを疎かにすることなく、自分の能力を高め、時代の変化に素早く対応する人間に成長してください。

皆さんは、立派な大人です。自分の行動に責任を持たなければなりません。それと同時に、強い意見、大きな声にただ従うのではなく、自分の頭で考え、社会に自分の意見を発言していくことも必要です。しっかりとした自分の物差しを持つとともに、価値観を磨き、人間力を大いに身に付けてください。

結びに、保護者の皆様、お子様は、これから新しい社会に羽ばたき、成長していきます。どうかお子様の自主性を重んじ温かい目で見守ってほしいと思います。

卒業生の皆さんのますますの御活躍を祈念して、本日の告辞といたします。

平成三十一年三月三日

広報室

〈退職〉

金森　康次 先生（英語科）

平成三十一年四月十一日をもって定年退職されました。本校には三十年に渡り多大な貢献をなされました。ありがとうございました。

〈異動（転出）〉

松井　寛之 先生（地歴・公民科）

平成三十一年四月一日付で、日本大学櫻丘高等学校教頭に就任されました。

小野　康史 事務課 課長補佐

平成三十一年二月十五日付で、日本大学生物資源科学部へ転出されました。

〈異動（転入）〉

長谷川（はせがわ）　淳（じゅん） 先生（地歴・公民科）

平成三十一年四月一日付で、日本大学三島高等学校・中学校より本校に着任されました。

〈一言〉皆さんと共に文武両道の学校生活を送りたいと思います。

林（はやし）　優希（ゆうき） 先生（地歴・公民科）

平成三十一年四月一日付で、日本大学藤沢高等学校・中学校より本校に着任されました。

〈一言〉生徒の皆さんのために頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

吉江（よしえ）　祐治（ゆうじ） 先生（保健体育科）

平成三十一年四月一日付で、日本大学習志野高等学校より本校に着任されました。

〈一言〉気持ちも新たに、鶴ヶ丘高校のために頑張ります。

〈新任〉

◎専任

大舘（おおだち）　尭春（たかはる） 先生（数学科）

〈一言〉生徒たちが充実した学校生活を送れるよう精一杯頑張ります。

松田（まつだ）　房之（のぶゆき） 先生（芸術科）

〈一言〉みんなで一緒に笑顔と歌声あふれる鶴高にしていきましょう！

近内（こんない）　三孝（みつのり） 事務課員

平成三十一年四月一日付で、本校事務課に着任されました。

山寺（やまでら）　信幹（のぶみき） 事務課員

平成三十一年四月一日付で、本校事務課に着任されました。

◎非常勤講師

加山（かやま）　和弥（かずや） 先生（国語科）

〈一言〉令和と定まり、すぐに万葉集を開きました。今年一年よろしくお願いします。

仲井眞（なかいま）　建一（けんいち） 先生（国語科）

〈一言〉よく迷っていてふらふらしていますが、よろしくお願いいたします。

川島（かわしま）　拓真（たくま） 先生（地歴・公民科）

〈一言〉みなさんと一緒に鶴高生活を楽しみたいです。よろしくお願いします。

岸本（きしもと）　啓史（ひろふみ） 先生（数学科）

〈一言〉まだまだ未熟な点もあると多いと思いますが、一人でも数学の面白さを分かってもらえるように全力を尽くします

須田（すだ）　建城（たてき） 先生（数学科）

〈一言〉少しでも生徒の力になれるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

平岡（ひらおか）　千寛（ゆきひろ）　先生（数学科）

〈一言〉みなさんと共に成長していきたく思います。よろしくお願いします。

横溝（よこみぞ）　昭平（しょうへい）　先生（数学科）

〈一言〉皆さんに少しでも数学の楽しさを伝えたいと思っています。

大辻（おおつじ）　暁（さとる）　先生（理科）

〈一言〉物理学の面白さを伝えていきたいです。よろしくお願いします。

山崎（やまさき）　歩（あゆみ）　先生（理科）

〈一言〉全力で頑張って参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

川島（かわしま）　美沙（みさ）　先生（英語科）

〈一言〉皆さんと共に日々学び、成長していきたいです。よろしくお願いします。

岡（おか）　麟太郎（りんたろう）　先生（英語科）

〈一言〉目指すは「楽しく、ために成る授業」です。よろしくお願いします。

野村（のむら）　拓也（たくや）　先生（英語科）

〈一言〉B'zとイギリスが大好きです。よろしくお願いします。

中井（なかい）　圭佑（けいすけ）　先生（情報科）

〈一言〉楽しく授業をやっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

髙橋（たかはし）　愛（あい）　先生（家庭科）

〈一言〉皆さんとともに学び、良い授業を作っていきたいと思います。

中島（なかしま）　大一朗（たいちろう）　先生（美術科）

〈一言〉残念ながら美術は選択科目であり、一年生のみですが、美術に興味がある生徒は、いつでも声をかけてください。

平成31年度　第1学年担当教員

学年主任

久保田善政（理科）

担任

A組　津田　寛行（保健体育科）
B組　大舘　尭春（数学科）
C組　土橋久美子（数学科）
D組　堀内　美和（理科）
E組　東條　剛（国語科）
F組　小林　仁（地歴・公民科）
G組　山内　智史（英語科）
H組　松田　房之（芸術科）
I組　桐田　知典（地歴・公民科）
J組　竹澤　香緒（保健体育科）
K組　髙間　大輔（英語科）
L組　金森真彩美（国語科）

副担任

日比　茂（国語科）
長谷川　淳（地歴・公民科）
金箱　春菜（数学科）
磯崎　宏（英語科）

第一学年 オリエンテーション

学年主任
久保田善政

四月十二日（金）から十四日（日）まで二泊三日で富士緑の休暇村でオリエンテーションが実施された。

我々が富士緑の休暇村に着く直前まで雪が降っていたようで、とても寒い中でまずは開校式。午後は学年主任と教務主任によるガイダンスから始まり、クラス対抗綱引き大会。夜はクラスミーティングで委員や係決めが行われた。入学式から一週間しか経っていないので、最初こそ表情は不安気で緊張している様子であったが、クラスが団結して取り組む綱引き大会以降は仲間どうしで協力しあう姿が見受けられ、表情も和らいできた。

二日目は朝からとてもよい天気で、富士山が間近に姿を見せてくれた。午前中は学校長と生活指導部主任、生徒会主任によるガイダンス。そして富士山をバックにクラス集合写真撮影。午後は休暇村周辺の散策、ドッジボール大会。夜はクラスミーティングでコンセンサスゲームによるチームビルディングが行われた。積雪のために当初予定のハイキングができなくなったが、朝から夜まで盛りだくさんな内容を時間がタイトな中で滞りなく行うことができたのは、生徒達がやるべきことを理解し、互いに協力し合って取り組んでくれたおかげである。

三日目はオリエンテーションの振り返り、ポートフォリオの作成の後、閉校式へ。富士緑の休暇村を出発後、郷土料理のほうとうを食べて帰路に就いた。

この三日間で、自分の周りには頼りになる仲間がいるということを認識することができたと思う。今後、勉強のこと、クラス活動、自分自身の課題の解決のためにいろいろな人から力を借りたり、貸したりできる、そのような人間関係を作っていってほしい。今回のオリエンテーションの内容を生かし、ガイダンスで触れた「自主創造・真剣力行・和衷協同」の三校訓の実践を通して、これから多くの仲間と多様な経験・体験を積み重ねて学んでくれることを期待している。

生徒作成のポートフォリオより

昨年度の１年生から高大接続改革の対象学年となり、大学に出願する際には、現制度（高校３年生）よりも調査書、推薦書、そして生徒が作成する提出書類の内容が大切と言われています。そこで役立つのが、eポートフォリオです。ポートフォリオの本来の意味は、「入れもの・器・書類入れ」。生徒たちは、学校の授業や行事や部活動などでの学び、自身で取得した資格・検定、そして学校以外の活動成績等をWeb上のeポートフォリオに記録していきます。今年度のオリエンテーションも、まず紙のポートフォリオ形式で振り返りを実施しました。その中から一部を紹介します。

学年主任講話の感想　E組　鶴田　涼乃（狛江四中）

久保田先生が何度もおっしゃっていたように中学生の時とは違い、高校では自分でしっかりと管理し、勉強に取り組まなければいけないことを改めて自覚させられました。もっと自覚を持ち、三年間を過ごしていきたいです。浮かれてばかりではダメだなと思いました。

学校長講話を聴いて今後の活動に活かすこと　K組　矢城　美南（笹塚中）

教科書を納得できるまで読み込もうと思いました。中学校の頃は授業が終わって分からないことがあっても、「まあ、いいや」で終わらせてしまったけれど、高校では、しっかりと復習をし、教科書を「読み込もう」と思いました。

オリエンテーションでの全般ついての感想　C組　青山　舞（常盤中）

初めは、まだ出会ってばかりの人と三日間過ごすということに不安を感じていました。しかし、綱引き大会やハイキング、ドッジボール大会を通して、私の周りには信頼できる友達が多くいることに気づくことができました。

第二学年 校外授業

学年主任 中川　光

五月八日水曜日、雲一つない汗ばむほどの陽気の中、相模湖プレジャーフォレストにて第二学年の校外授業が実施された。甲州街道沿いに駐車したバスに生徒が続々と乗り込んでいく。電車の遅延による影響も、幸いそれほど大きな影響を受けなかった。そのため遅刻をする生徒はほぼおらず、順調な滑り出しであった。また中央道での交通渋滞もなく、予定よりかなり早く到着した。午前のイベントであるオリエンテーリングの説明には手間取ったものの、前半グループ、次いで十五分から二十分遅れて後半チームがスタートした。マップを見ながら、コンパスを使用してポストを探し、備え付けのスタンプを押して得点を競う。単純なようだが、そう簡単ではない。なぜなら、敷地内の広範囲にわたってポストが点在しており、活動時間はわずか六十分。四苦八苦しながら、男女共に協力してポストを探していく。スタンプは十点から四十点と幅があり、数が多くても十点ばかりだと合計点数が低くなる。高得点を狙ってスタンプを押そうと奔走する生徒たちの様子を見ながら、私は一足先にゴール地点で生徒たちを待った。グループが次々とゴールに到着し、満足感に浸りながら、お互いにねぎらいの声を掛け合う様子をみて、私は男女混合班を通して協力しながら目的を達成することの大切さを学んでくれたかなと思いながら、飯盒炊爨を実施する特設キャンプ場へ移動した。スタッフからの説明を受け、早速カレー作りがスタート。それぞれの班で話し合いをしながら、調理に没頭している。窯では煙と奮闘して目からは涙が止まらず、炎と暑さで額から汗がほとばしる。長い奮闘の末に出来上がった、二度と再現できない思い出というスパイスを効かせたカレーを、和気あいあいと食する姿を私は感慨深く見守った。片付け、ごみ捨てをはじめ、率先してテキパキと動く生徒が多くいたことに安堵するとともに、これからの成長に益々の期待感を抱いた。特設サイトすぐ横の、新緑に囲まれた敷地で記念撮影をし、そのままバスに乗車。帰りも渋滞に巻き込まれることなく、スムーズに明大前に到着し、解散となった。

二学年の先生方の協力の下、ケガ人もなく、天候や渋滞に振り回されることなく、本当に好条件に恵まれた校外学習であった。生徒諸君はもちろんのこと、我々教員一同も、この経験を次の集団的行事である修学旅行に活かせるものと信じている。

K組　木島　桜子（月寒中）

今回の校外学習は不安でいっぱいでした。それは私が班長として周りを引っ張らないといけないと思っていたからです。特に飯盒炊爨ですが、私はあまり料理が得意ではなく、また班の他のメンバーの中にも料理に自信がある人がいなかったため、とても不安でした。

しかしその不安は現地に到着してすぐに消えていきます。最初に行ったオリエンテーリングでは、方向音痴な女子のことを男子が引っ張ってくれました。たくさんの場所を回ることはできなかったけれど、そして同じ道を何回も歩いてしまいとても疲れたけれど、みんなで大笑いをしながら行ったオリエンテーリングは、とてもよい思い出になりました。

心配だったカレー作り。かまどの火が一瞬で消えてしまったり、じゃがいもの皮が剥けなかったり、全然野菜に火が通らなかったりとハプニングがたくさんあり、他の班よりも進度が遅い私たちの班。少しずつみんなの焦りも見られました。ですが、「せっかく作るのであれば美味しいのがいい！」と、遅れながらもしっかりと作り上げることができました。

出来上がったカレーはとても美味しくて、他の班のご飯ももらって食べたくなるほどでした。食べ終わり片付けをしようと思っていたその時、使っていた器具がすでにピカピカになっていたことに気づきました。洗い物の担当を決めていたわけでもないのに野菜を煮ている間に先に洗い物を済ませてくれていたのです。ご飯とカレーの容器は水につけられていて、片付けもスムーズに終わらせることができました。

最初は遅れていたものの班員全員の心配りのおかげで、カレーも美味しく出来て、遅れも取り戻すことができました。自分ももっとみんなに心配りをしないといけないと思いましたし、人の心配りに気づいてありがとうと素直に感謝できる人になりたいと思いました。

修学旅行につながる良い経験になったと思います。

第三学年 校外学習

学年主任
伊沢　康子

五月八日水曜日に第三学年の校外学習が行われた。当日は朝から太陽が輝き、五月と思えない暑い一日であった。場所はマザー牧場で、飯盒炊爨をメインとした企画であった。

朝の集合は新宿工学院大学前。バスが十台並び、私が到着した頃には何人かの生徒がすでに到着していて、挨拶をしてくれた。私服のためなのか、学校内にいる時とは異なる表情に思えたが、何処かはにかんだ表情で互いに挨拶を交わした。もう高校三年生。最後の校外学習になり、その瞬間生徒の成長を感じた。

マザー牧場に向かう途中、海ほたるでトイレ休憩をとった。ほぼ全員の生徒がいったんバスを降りたのだが、「富士山がきれいに見える」という声が聞こえ、生徒の持つ心の余裕や、素直な反応がうれしい限りであった。

その後一時間ほどで、マザー牧場のキャンプ場に到着した。

まず、本校を卒業し現在同施設にて働いている小澤さんがマイクで挨拶を兼ねてお話をしてくれた。「身近に卒業生がいる」という親近感が、間接的に生徒の将来を考えることに繋がれば面白いと考え、企画していた。

次はキャンプのカレーを作る番だ。キャンプ場の人から説明を受けてテーブルに散らばり、生徒が動き出した。一年生のオリエンテーションにて、薪でのカレーつくりは経験済だ。前日までに担任がスープカレーにならないように、薪を組んで火を熾せるように、野菜は薄切りで煮えるように言っていた。ある意味二回目ともなると、できて当たり前というハードルが担任にものしかかる。生徒は「また作るの」と言っていたが、出来上がりが楽しみだった。今回は担任以外の教員も同じようにカレーを作って食べる。負けていられない。教員チームがいち早く出来上がり、横の生徒たちを見て、大人の仕事ぶりを提示できた。生徒の出来上がりはさておき、どんな生徒も自分の作ったカレーが美味しいはずだ。一年生のころに比べれば、圧倒的に上手になり、鍋もきれいに磨き、次の人にこの食器をつなぐ意味も考えて行動できている。鶴高の生徒は、「次」をバージョンアップしていく頼もしさも持ち得るのだ。

事後学習のワークシートへの取り組みも格段に着眼点を明確化できている。私にはない発想の一言にも毎回出会える。生徒たちはもう高校三年生になったのだ。行事は令和最初でも彼らにとっては「最後の」になる。この後は受験。面倒と思わずに素直に動ける心を勉強に活かして、受験を乗り超えよう。成功体験に留まらず、革新する力を持つ者こそが何事にも勝ち得ると、信じている。

カレーライス

D組　岡島　純菜（芦花中）

校外学習で一番印象に残っているのはカレー作りです。私の班はご飯の水の量が少なすぎて、ちゃんと炊いたはずなのにお米がカチカチにかたくなってしまいました。野菜も全然火が通っていなくて、ジャガイモはシャキシャキ、ニンジンは半分生みたいな感じで、お世辞にもおいしいとはいえないカレーでした。でも、おいしいカレーはたべられなかったものの、班のメンバーでとてもとても楽しい時間を過ごすことができました。カレー選びでは、他のよりはまだかたくなさそうなご飯のお皿を取るためにじゃんけんで盛り上がり、食べている時はお米のあまりのかたさに笑いあっていました。こういう楽しさは、家では味わうことのできない、校外学習ならではだなと感じました。正直、三年生にもなって、一年生のオリエンテーションと同じカレー作りなんかやらなくてもいいのになと思っていたけれど、意外にも楽しくて、カレーの味も含めてとても良い思い出になりました。また、今回のカレー作りをきっかけに、今まで一度も喋ったことのない人とも喋ることができたのでうれしかったです。

校外学習が終わった今、次の行事は六月に行われる文化祭です。文化祭では、今回のカレーのように失敗せずにおいしい屋台を出せるように頑張りたいです。最高学年となった今年は、どんな行事も「高校最後」になってしまうので、どの行事も後悔しないように全力で取り組み、思い切り楽しもうと思います。最後の一年間、最高の一年にしたいです。

平成30年度　第19回ケンブリッジ大学付属高校生イースタープログラム

今年もケンブリッジ大学での約３週間の研修が行われ、
本校から３名の生徒が参加した。

確信に変わった17日間

３年Ｊ組　山田浩一朗（茨城大附属中）

自分の中に抱いている様々な葛藤が１つの明確な意思に変わった。100年に満たない人生を全うする為には、目的を持つ必要があると僕は考える。

イギリスは日本と同じ島国である。しかし、考え方は全く異なる。それは表面の文化などではなく、物の見方・意見の持ち方・表現の仕方 などである。

「間違えを捨てない・流さない」この事を是非みなさんにも大切にしてほしい。自分や周りの人が間違えた物は、大切な財産であり間違えから学ぶことの方が多いからだ。間違えを流すのではなく、「なぜその意見にたどり着いたのか？ その意見のプラスになるところはどこか？」探していくことが大切である。

他者から学ぶ事は非常に多く、自分を創っていく為に重要な事であると学んだ。

最後に、自分の夢、情熱には従うべきである。

「Follow your passion, Follow your dreams」

イギリスでの大切な日々を過ごせた事に感謝している。

Cambridgeが教えてくれたこと

２年Ｅ組　菊池　結月（志茂田中）

私はこのCambridge Easter Programに参加したことにより英語という存在が、机上のものから自らの道具になったと感じた。

自分から異国の言葉を話し、自分を表現する事はシャイな日本人からするととても困難な事かもしれない。しかし、それに打ち勝った先には今まで見たことの無いような自分や景色に出会えることを、身をもって痛感した。私は研修が始まった当初「自分の英語が伝わらなかったらどうしよう」という不安に支配され、よく先生や現地の生徒さん達に「Don't be shy!! You can do it!!」と声をかけられた。そこで少人数授業が始まったタイミングで、“自分が今ここにいる意味・理由”を再確認し、自ら相手とコミュニケーションを取ろうと行動を始めた。結果、勇気を出して英語を使い、相手とコンタクトを取る事は、自分への高い経験値になると共に、自信や達成感そして「もっと英語が話せるようになりたい」という向上心にさえ繋がった。

この経験により、暮らしている場が違えど、日本人とイギリス人またその他の国に住む人々全て自分と同じ人間なんだと思った。使う言葉が違うだけで、話す事を躊躇ったり自らコミュニケーションを断つ事はもったいない。私は今後、自分の語学に磨きをかけ異文化交流を盛んにし、グローバル社会に貢献していきたいと思った。多くの事を体験という形で教えてくれたこのプログラムに感謝でいっぱいだ。

ケンブリッジの思い出

２年H組　志村　夏実（深川七中）

私がこの研修を一言で表すなら“最高”です。なぜこの言葉なのかというと、最高な仲間に出会い、最高な経験をすることが出来たからです。

始めの２日間は、英語による会話や生活に対する不安が大きく、正直落ち込む時もありました。しかし、そのような時に支えてくれたのが仲間です。仲間と日本食を食べながら会話をすることにより、気持ちがスッキリし頑張ろうと思えました。

この研修は、プログラムがぎっしりと詰まっていて他には味わえない充実感を感じることができます。ケンブリッジ大学という世界の名門大学で有名な教授に学ぶことができました。この経験は私の人生においてかけがえのないものになりました。このような経験ができたのは、私にこのプログラムを勧めてくださった先生方、後押ししてくれた家族のおかげです。みんなに感謝の気持ちを伝えたいです。

最後に、このプログラムに興味がある人に向けてのメッセージです。英語ができなくても、積極性があれば大丈夫。技術ではなく、気持ちが大切だと思うので、迷っている人は是非参加してください。

三年生を送る会

三年生を送る会が二月二十日（水）、本校体育館・テニスコートにて開催された。この三年生を送る会は、生徒会役員会と鶴ヶ丘祭実行委員会、体育祭実行委員会を中心に、放送部の協力も得て運営される。午前中はクラス対抗ドッジボール大会で、クラスが一丸となって一生懸命取り組む姿が見られた。午後は体育館にてドッジボール大会の表彰から始まり、部活動や先生方からのメッセージと三年間の思い出を辿るスライドショー、最後は一・二年生の全員合唱「旅立ちの日に」で、大きな盛り上がりを見せていた。ドッジボール大会の結果は次の通りである。

男子　優勝　三年Ｇ組
　　二位　一年Ａ組
　　三位　一年Ｇ組

女子　優勝　三年Ａ組
　　二位　二年Ｇ組
　　三位　一年Ｈ組

相談室

高校生が一日の大半を過ごす学校は、実にさまざまなことが起こる場所です。友だちとの関係、部活動のこと、進路の悩み…ひとりで抱えるにはあまりに大きな困難や課題と直面しながら生徒は生活しています。

そのような問題は周囲の友達や家族、先生方に相談することで解決できるものも多いとは思います。しかし、時には誰に相談していいのかわからなくなり、焦り、不安が募ることもあるでしょう。また、ただ話を聞いてもらいたい、気持ちをわかってもらいたい、そう願うことも少なくはないと思います。そのようなときには生活相談室を訪ねてみてください。相談室は修学寮の一階にあり、きれいであたたかな空間です。一人でも、友だちと一緒でもかまいません。「ちょっと休憩してみよう」という感覚でお話しをすることができます。

新しい環境での生活に体は慣れても、心が慣れるまでには時間がかかることもあるでしょう。これでいいのかなと迷ったり、ちょっと無理してがんばってしまっていることにつかれてしまったり。少しずつでも自分らしく笑顔で楽しく生活したい、とは誰もが願うこと。一人でも多くの生徒が居心地のいい環境で充実した学校生活を送れるよう、生活相談室がお手伝いをしたいと思っています。時間のかかることもあるとは思いますが、不安などを解消できるよう一緒に考えていきましょう。

今年度は日本大学本部より火曜日と金曜日にカウンセラーが来校いたします。また、相談室直通の電話もあります。お気軽に相談室をご利用ください。

2018年度（平成30年度）の進路概況

平成30年度の進路概況を報告します。まず、進学状況全般ですが、現役総合進学率は95.7%で、例年並みの進学率となりました。内訳は日本大学が68.5%、短期大学と海外の大学を含めた他大学が26.3%、各種学校が1.0%でした。日本大学へは昨年度と同様に60%を超え、2010年度（平成22年度）以降では最大値を記録しました。また、短期大学への進学者数は０人でした。これは2016年度が３人、2017年度が１人と減少傾向が続いていた中でのことで、本校の大学進学希望者は４年制を希望しているというこれまでの傾向が鮮明に現れた結果となりました。

日本大学への進学状況の詳細ですが、進学者数のトップ５を紹介すると、文理学部への進学者数が昨年に引き続き、２年連続で最多となり、以下、２位経済学部（昨年度４位）、３位理工学部（昨年度５位）、４位法学部（昨年度２位）、５位生物資源科学部（昨年度３位）という順番でした。進学者数が多い５学部に変わりはありませんが、ここ５年で初めて文理学部への進学者数が60名を越えました。また、法学部への進学者数も過去５年で最大数であった昨年度に続き40名を超えました。30年度卒業生の特徴です。

全国的には受験生の志願動向はここ数年続いてきた“文高理低”の傾向に歯止めがかかりました。具体的には前年比で志願者数が増加した学部系統は外国語、国際関係、芸術、総合科学、歯、理、工で、逆に前年比で志願者数減らした学部系統は人文科学、法、経済・経営・商、社会、生活科学、保健衛生、医、薬、スポーツ・健康です。本校の日大への進学状況についても同様の傾向が理工学部への進学者数増、法学部への進学者数の減などに見られます。学部系統別志望者数というのは大抵が隔年減少で、志願者数を減らした翌年は志願者数を増やすというのが一般的な傾向ですが、そんな中で薬と農・水産は２年連続で前年度より志願者数を減らしている系統です。ところが本校から薬学部へは８名が進学しました。これは平成27年度の10名に続き、過去５年では最多数を記録しました。

一般入試の合格状況ですが、国公立大学は４名、私立大学は入学定員厳格化の影響を受け、厳しい状況の中、早慶上理レベルの難関私大に12名、GMARCHには24名が合格しました。

国公立を狙う場合は、首都圏だけでなく地方にも目を向けてみると自分の学びたい学部系統の選択肢が一気に広がります。今の高校２年生から新入試になり、今年の３年生は浪人できないという思いから、志望を自分の実力程度のところへの出願に留まる傾向が一層強まることが予想されます。この傾向は裏を返すと自分の第一志望に最後までこだわれば、ライバルが勝手に逃げていく、とも言えます。現役生は入試直前まで伸び続けます。今の学力は入試日の学力ではありません。これから受ける模試の判定に一喜一憂せず、自分を信じて受験当日まで頑張り続けましょう。

大人は受験生を見てみんなこう思います。《いま頑張らずにいつ頑張るの》と。２年生、１年生は３年生になったら脳みそが沸騰するほど勉強してでも入りたい学部系統を見つけるための《進活》を始めましょう。進学雑誌や受験雑誌で興味のある所を見つけたら、これからの夏休み等を利用して是非、オープンキャンパスや大学見学をしましょう。進路指導部は君たちが自分の進路を見つける手助けをしていきます。

日本大学各学部進学者数
［平成30年度卒業生］

学部	合計
法学部	41
文理学部	69
経済学部	54
商学部	13
芸術学部	16
国際関係学部	2
危機管理学部	4
スポーツ科学部	1
理工学部	43
生産工学部	0
工学部	0
医学部	0
歯学部	0
松戸歯学部	0
生物資源科学部	36
薬学部	8
短期大学部	0
専門学校	0
合計	287

平成30年度卒業生
主要他大学 現役合格者数

大学名	合計
国公立大学	
横浜国立大学	1
新潟大学	1
信州大学	1
横浜市立大学	1
私立大学	
早稲田大	1
慶應義塾大	1
上智大	3
東京理科大	7
明治大	9
青山学院大	6
立教大	7
中央大	8
法政大	9
学習院大	3
成蹊大学	8
成城大学	5
武蔵大学	4
明治学院大学	4
東洋大学	8
専修大学	1
東京農業大学	7
芝浦工業大学	3
國學院大学	4
東邦大学	1
東京薬科大学	2
昭和薬科大学	1
東京女子大学	6
日本女子大学	3
聖心女子大学	1
東京女子医科大学	2
多摩美術大学	2
海外大学	
State University of New York Purchase College	1
Arkansas State University	1
Drury University	1

過去３年間コース別進学概況

	2016年度			2017年度			2018年度		
コース	普通	特進	合計	普通	特進	合計	普通	特進	合計
卒業者数	361	50	411	372	54	426	383	36	419
日本大学	254 70.4%	4 8.0%	258 62.8%	258 69.4%	4 7.4%	262 61.5%	282 73.6%	5 13.9%	287 68.5%
他大学（留学含む）	92 25.5%	43 86.0%	135 32.8%	96 25.8%	40 74.1%	136 31.9%	83 21.7%	27 75.0%	110 26.3%
各種学校	5 1.4%	0 0.0%	5 1.2%	5 1.3%	0 0.0%	5 1.2%	4 1.0%	0 0.0%	4 1.0%
進学合計	351 97.2%	47 94.0%	398 96.8%	359 96.5%	44 81.5%	403 94.6%	369 96.3%	32 88.9%	401 95.7%
就職	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.2%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.2%
その他	10 2.8%	3 6.0%	13 3.2%	12 3.2%	10 18.5%	22 5.2%	13 3.4%	4 11.1%	17 4.1%

５回戦　本校０－２武蔵野大千代田
都ベスト８
▽インターハイ個人予選東京都予選（５/12・19）
都ベスト32
林﨑菜々子・藤原　美月
都ベスト64
春名　美和・池本　絢那
三浦　花織・藤間　彩花

■バドミントン部
▽八王子オープンシングルス大会（２/17）
▽高体連新人戦Ⅱ部大会（男女シングルス）
女子ブロック優勝
奈良　朋実（２C・ひよどり山中）、
山中　皓葉（２H・泉南中）
▽山梨オープン大会（３/27～29 山梨県甲府市）（男女団体戦）
▽北区高校生オープン大会（ダブルス・シングルス）（３/28～29）
▽研修大会（団体戦・８校戦）（４/３）
▽練馬春季ダブルス大会（４/６）男女ダブルス　女子２部２位・３位
▽関東大会予選（団体戦）（４/21）男子２回戦、女子４回戦
▽インターハイ予選（個人ダブルス・シングルス）（５/１～４）男女３回戦

■剣道部
▽関東大会東京都予選（４/29）
女子団体　ベスト16
１回戦　本校３－１潤徳女子
２回戦　本校３－０都立小山台
３回戦　本校３－１都立清瀬
４回戦　本校２－０都立篠崎
▽関東大会東京都予選（５/11）
女子個人
ベスト16　福本　光莉（３G・国分寺三中）
▽インターハイ予選第５支部予選（５/19）
女子個人　都大会出場
B３ブロック通過　川口　純奈（２K・清泉中）
D１ブロック通過　福本　光莉（３G・国分寺三中）

■空手道部
▽東京都総合体育大会（４/28・４/30　成立学園）
男子団体組手　第３位
（腰高・小松・松永・笠原・佐藤・明賀）
女子団体組手　第２位
（軍司・石野・江副・太田・田中・榎本・波多野）
女子団体形　第２位
（軍司・石野・江副・田中・榎本）
女子個人形　第３位
軍司　佳歩（３C・三鷹一中）
※上記４種目　関東大会出場！

■ウエイトリフティング部
▽平成30年度 第34回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会（３/24・25・26 於：石川県金沢市総合体育館）
女子59kg級　トータル153kg　４位
橋本　夏実（１L・東村山四中）
▽2019年度 第52回関東高等学校ウエイトリフティング競技大会東京都予選会（４/14 於：武蔵野の森総合スポーツプラザ）
男子67kg級　トータル170kg　１位
小林スィナ（２F・三沢中）
男子81kg級　トータル189kg　１位
蛯名　廉（２M・落合二中）
男子89kg級　トータル187kg　３位
田中　健太（２F・十条富士見中）
女子59kg級　トータル154kg　１位
橋本　夏実（２M・東村山四中）
▽令和元年度 東京都高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会（５/６ 於：武蔵野の森総合スポーツプラザ）
男子81kg級　トータル195kg　１位　蛯名　廉
男子89kg級　トータル190kg　２位　田中　健太
女子59kg級　トータル150kg　１位　橋本　夏実

■放送部
▽吹奏楽部第46回定期演奏会司会（３/18）
豊島　心子（２A・荻窪中）　小林　愛実（２B・西中原中）
高野えみり（２C・上野中）　今井　結衣（２F・桝形中）
野崎　麻衣（３B・府中六中）木澤りさ子（３I・南六郷中）
鎗　桃代（３J・城西大附城西中）

■演劇部
▽第13回東京都城西地区春季発表会（４/28）
顧問作「お墓の話」演出賞受賞

■吹奏楽部
▽第46回定期演奏会（３/18）
▽入学式での演奏（４/６）
▽ゴールデンパレードに参加（５/５）
▽新入部員歓迎会（５/12）
▽第57回東京都高等学校吹奏楽連盟定期演奏会 High School Band Festival 2019（６/16）
▽鶴ヶ丘祭での演奏（６/22）

■バトントワリング部
▽平成31年３月 第33回東京都高等学校バトン連盟新人戦銅賞受賞
▽令和元年５月 第52 回「ゴールデンパレード2019」（第13回銀座柳まつりゴールデンパレード）
▽令和元年６月 鶴ヶ丘祭　演技披露

■茶・華道部
▽和菓子実習（１月）
▽エントランスホール華道展示（４月～）

■料理部
▽アレルギー対応比較「ハンバーグ」（１/31）
▽料理部考案メニューお弁当販売実施
（129食販売、３/11、12、20）
▽自家製味噌作り（３/14）
▽テーブルマナー講習受講@ハイアットリージェンシー東京（４/２）
▽お弁当販売の売り上げの一部（2,592円）をTable For Two に寄付（４月）

■ダンス同好会
▽部活動説明会にてダンス発表（４/19）
▽鶴ヶ丘祭にてダンス発表（６/22・23）
▽月１回、ダンス講師のレッスン開催
▽月１回、バレエ講師のレッスン開催

教育実習

５月23日から６月12日まで、17名の実習生が三週間の教育実習に取り組んだ。緊張と期待を胸に日々成長を遂げる実習生たちは大変頼もしく感じられた。本校での経験が、今後教職に就いた際の糧となることを願う。

令和元年度　教育実習生一覧

実習生氏名	教科	教科担当者	HR担当者
戸張　柾	国語（古典）	小山	小山
崎玉　智也	地歴（世界史）	桐田	桐田
本橋　翔	地歴（世界史）	中川	蔦原
遠藤　有悟	地歴（日本史）	長谷川	土橋
川島　祐太	地歴（日本史）	賀来	賀来
副島　優太	地歴（地理）	黛	千葉
前山　直樹	公民（現代社会）	小林	小林
西山　椋子	公民（現代社会）	林	林
山本　奈々	数学	谷	谷

実習生氏名	教科	教科担当者	HR担当者
藤尾　穂香	理科（物理）	齋藤純・田中健	山内
安井　凌	理科（生物）	堀内	堀内
伊藤　雅栄	保健体育	浅見	浅見
高野　湧介	保健体育	高部	高部
野村　諒太	保健体育	津田	津田
村田　弘美	保健体育	竹澤	竹澤
小川　佳穂	芸術（音楽）	松田	松田
横田　凌馬	情報	片桐	片桐

部活動報告

■スキー部

▽東京都高等学校春季スキー大会
（４/19～23　於：鹿沢スキー場）
女子回転競技（選考会）
第３位　並木　日和（３Ｉ・新座中）
女子大回転競技（選考会）
第２位　並木　日和
男子回転競技（本大会）
第５位　戸田　直人（３Ｇ・桜丘中）
男子大回転競技（本大会）
第４位　戸田　直人

■陸上競技部

▽平成31年度東京都高等学校陸上競技対抗選手権大会第４支部予選会要項（４/13・14）
男子200m
長谷川　由（３Ｆ・調布中）　決勝23.99
男子1500m
小川　晃生（３Ｄ・狛江二中）　決勝４.20.31
櫻井　晴（２Ｅ・玉川中）　決勝４.10.05　７位入賞
女子800m
河邊　咲（３Ｊ・板橋三中）　決勝２.40.04
川住　伊代（２Ｍ・品川学園中）　決勝２.39.47
女子1500m
河邊　咲　決勝５.26.53
▽第72回東京都高等学校陸上競技対校選手権大会（５/11）
男子1500m
櫻井　晴　予選４.08.23
この結果、予選敗退となったが、７月におこなわれる選抜大会の参加標準記録を突破した。

■野球部

▽平成31年度春季東京都高等学校野球大会（ブロック予選）
３/16　１回戦　本校11-０学習院高等科
３/21　２回戦　本校19-０芝浦工業大学付属高等学校
▽平成31年度春季東京都高等学校野球大会
４/１　１回戦　本校10-６大森学園高等学校
４/４　２回戦　本校９-０日本大学第一高等学校
４/７　３回戦　本校０-６関東第一高等学校

■サッカー部

▽関東大会東京都予選（４/７）
本校０－５東京実業　負け
ベスト32敗退
▽全国高等学校総合体育大会東京都南支部予選（４/28～）
２回戦　本校３-０目黒　勝ち
予選決勝　本校３-１武蔵丘　勝ち

▽全国高等学校総合体育大会東京都予選（５/12～）
１回戦　本校３-１久留米西　勝ち
１次予選決勝　本校０-６大成　負け　ベスト32敗退

■男子バスケットボール部

▽2019年度東京都高等学校男子バスケットボール春季大会兼関東大会東京都予選（４/20～28）
１回戦　本校91-73都赤羽商
２回戦　本校22-127都東大和　※２回戦敗退
▽2019年度東京都高等学校総合体育大会男子バスケットボール大会兼全国高等学校総合体育大会東京都予選（５/19）
１回戦　本校43-77都翔陽　※１回戦敗退

■女子バスケットボール部

▽令和元年度東京都総合体育大会兼全国大会東京都予選（５/12）
１回戦　本校70-77都立小金井北高

■男子バレーボール部

▽関東大会都予選（４/21）
１回戦　本校２-０紅葉川
本校０-２成蹊

■女子バレーボール部

▽春季リーグ戦（４/21、28）
本校１-２東海大菅生
本校２-０大成
本校２-０大泉
本校２-０桜蔭
本校２-０農産
▽春季大会（５/５）
本校０-２日野

■アメリカンフットボール部

▽第18回スティックボウル（関東高校地区選抜対抗戦）12/28　@アミノバイタルフィールド
東京Ａ15-14SIC選抜
東京Ｂ16-24神奈川選抜
本校からは、以下の５名が選出され出場した。
ＷＲ　久保田健太郎（２Ｇ・世田谷中）・マネージャー　星　瑠那（２Ｃ・城山中）・赤倉　栞莉（２Ｆ・府中十中）・菊地　萌（２Ｉ・大森十中）・大澤　羽衣（２Ｉ・狛江四中）
▽第８回ニューイヤーボウル（関東地区選抜・関西地区選抜対抗戦）１/13　@エキスポフラッシュフィールド
東京選抜９-10兵庫・広島選抜
本校からは、以下の１名が選出され出場した。
ＷＲ　久保田健太郎（２Ｇ・世田谷中）

▽令和元年度東京都春季大会兼第45回関東高等学校アメリカンフットボール大会予選（４/７～５/12）
１回戦　４/７　シード
２回戦　４/14　シード
３回戦　４/21　本校28-21明治学院　@早大東伏見Gr.
４回戦　４/28　本校21-28早大学院　@日大鶴ヶ丘高Gr.
東京都　ベスト８

■男子ソフトテニス部

▽シングルス大会（２/17、24）
ベスト16　伊郷　太貴（３Ｄ・清明学園）
▽中野区春季大会（４/７）
ベスト８　伊郷　太貴　木庭　直哉（３Ｄ・深沢中）
▽春季大会（関東選手権予選）（４/21、28）
ベスト16　伊郷　太貴　木庭　直哉
この結果、関東選手権への出場権を獲得
▽関東団体選手権大会予選（５/３、４）
ベスト16
松永　拓也（３Ｂ・志村一中）
木庭　直哉
伊郷　太貴
川口竜之介（２Ｃ・尾久八幡中）
石川　雄聖（３Ｉ・御園中）
伊東　稜真（１Ｉ・清明学園）
佐藤　勝（３Ｄ・佃中）
佐藤　優真（２Ｂ・烏山中）
▽全東京選手権兼全日本選手権予選（５/12、19）
ベスト８　伊郷　太貴　木庭　直哉
この結果、全日本選手権への出場権を獲得

■女子ソフトテニス部

▽中野区民大会（４/14）
２位　林﨑菜々子（３Ｈ・深沢中）・藤原　美月（２Ｊ・稲城三中）
３位　春名　美和（３Ｂ・生田中）・池本　絢那（３Ｇ・南陵中）
３位　三浦　花織（３Ｈ・三鷹一中）・藤間　彩花（３Ｉ・篠崎二中）
▽関東大会東京都個人予選（４/21・28）
都ベスト64
林﨑菜々子（３Ｈ・深沢中）・藤原　美月（２Ｊ・稲城三中）
春名　美和（３Ｂ・生田中）・池本　絢那（３Ｇ・南陵中）
三浦　花織（３Ｈ・三鷹一中）・藤間　彩花（３Ｉ・篠崎二中）
岩崎　柚来（２Ｇ・深沢中）・河野　瑠凪（２Ｋ・南生田中）
▽関東大会東京都団体予選（５/２・３）
２回戦　本校２-１豊島学院
３回戦　本校２-０小山台
４回戦　本校２-０豊南

第１学年　オリエンテーション

第２学年　校外学習

第３学年　校外学習